

人種超えて幅広い交流

ルワンダで医療支援をする非政府組織（NGO）のアジア医師連絡協議会（AMDA）本部（岡山市）で、政府などとの交渉にあたるのが、ハンケラデシユ出身のローマン・チャウドリーさん（30）である。日本に留学し、日本企業で働いて一年。「一生日本かな、と思っていたら、アフリカ行ききの機会を見つけた。応募したらとんとん拍子で……」

彼のおかげで、キガリのAMDAの建物はいつも人であふれている。住人の日本人看護婦二人にネパール人医師、居候のタイ人女性に加え、国際NGOなどの西欧人、国連平和維持活動（PKO）のインド将校、ルワンダ政府の幹部ら、あらゆる人が集まる。日本人中心だとど

キガリ発

新アジア人

ここがちなまりまとまり、西欧人中心だとアジア人は入りにくい雰囲気は漂うものだが、ここは違う。

「日本はたくさん援助しているけど、コミュニケーションが足りない。ネットワークをつくって自分たちのやってみることを日本に知ってもらわなければ」

「でも、アフリカ人の労働感覚はアジアとは違うねえ」とも。海外で働く日本人や日本の組織にはある種の枠がある。日本社会との連携も不可欠だからだ。その枠を広げることができるのは、外の世界をよく知りながら、日本への愛着と一体感が人一倍強い新アジア人たちかも知れない。